



小さな一歩から

副校長 齊藤 哲之

新しい年を迎えてから、もう1か月が経とうとしています。先週は強力寒波の影響もあり、本格的な冬の寒さを感じずにはいられませんでした。しかしながら、2月3日は節分で、2月4日は立春となります。厳しい寒さの中にも春の兆しが少しずつ感じられる季節となります。

節分といえば、豆まきをして、年の数だけ豆を食べる習慣があります。いつのころからか年の数分食べるのをあきらめてしまうようになりましたが、季節を感じる行事や行事食は日本独自のものとして、ずっと残していきたいものです。



日本には春夏秋冬と四季があり、その季節ごとのよさがあります。しかし、世界各地で異常気象が多発し、雨がほとんど降らずに乾燥してしまっているところがあれば、ずっと雨が降り続いて洪水が多発しているところもあるなど、これまで起こらなかったことが世界各地で起こっています。日本も例外ではないので、このすばらしい四季がいつかなくなってしまうか心配になってしまいます。

異常気象の原因の一つに地球の温暖化が言われるようになって久しいですが、本校の児童も総合的な学習の中で環境問題を取り上げているクラスがいくつかあります。近隣の川の清掃活動を行ったり、ペットボトルを回収してペットボトルからリサイクルされた布でエコバックを作ったりと自分たちができることをクラスで話し合い、課題解決のための活動を行っています。子どもたちの主体的な学びであるからこそ、子どもたちの表情はいつも輝いています。その活動の一つ一つは小さな一歩かもしれませんが、その小さな一歩の積み重ねが大きな一歩となり、いつしか世界を変えることができるかもしれません。

「継続は力なり」どんなことも最初は小さな一歩から始まります。その一步一步の積み重ねが、自分の成長や結果につながっていくのだと思います。新しい年を迎えて1か月。環境問題を始め、様々な課題がありますが、私自身も主体的にまずは小さな一歩を踏み出してもっと自分を高めていきたいと思っています。